

2025年3月期 決算補足説明資料

2025年5月8日

フィード・ワン株式会社

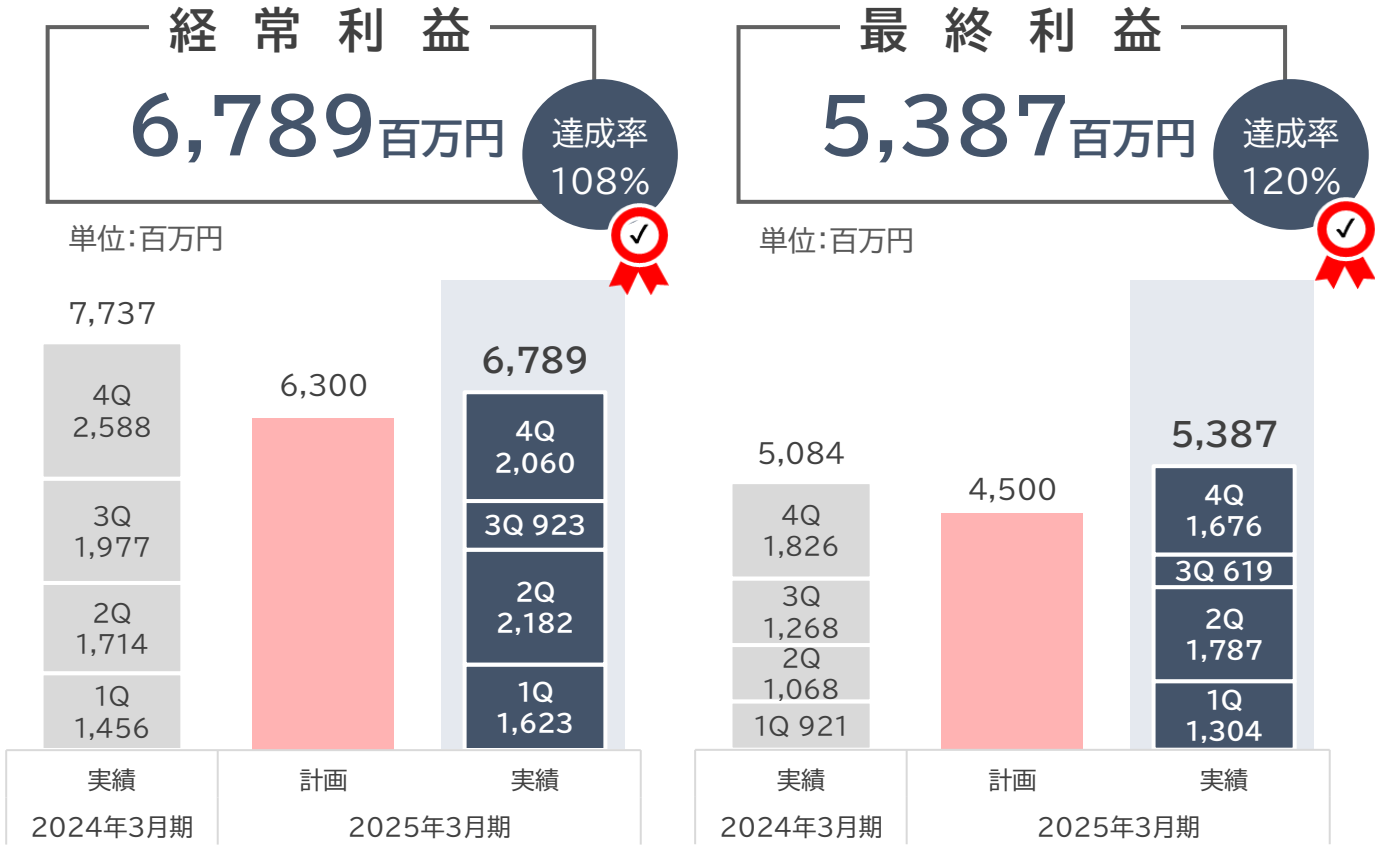
東証プライム 証券コード2060

飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔届ける

売上総利益は前期比増加。販管費の増加により経常利益は前期比減少も最終利益は過去最高益

(百万円)

	2024.3期	2025.3期		
			前期比	業績予想 達成率
売上高	313,875	296,045	▲5.7%	96.4%
売上原価	283,153	264,171	▲6.7%	—
売上総利益	30,721	31,874	+3.8%	100.2%
販管費	22,972	25,531	+11.1%	—
営業利益	7,748	6,343	▲18.1%	104.0%
経常利益	7,737	6,789	▲12.3%	107.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,084	5,387	+6.0%	119.7%



基金積立金による販管費増加(次頁参照)も畜産飼料・水産飼料で粗利が改善し計画達成

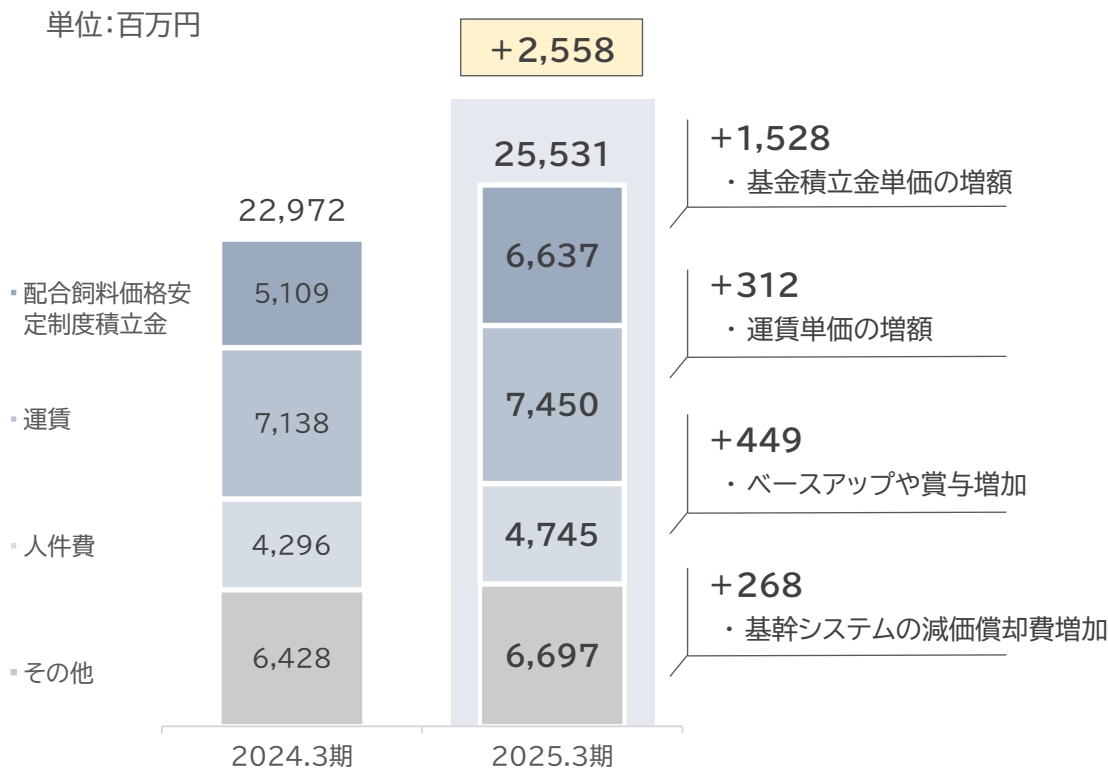


計画を上回る経常利益と税負担減少(次頁参照)により過去最高益

販管費と最終利益に関する補足

販管費は前期を上回るも計画範囲内に収まる。税負担は不採算事業の撤退と賃上税制等により大きく減少

販管費明細



最終利益増加要因

税負担の減少により最終利益は過去最高益

2024.3期 税負担率

32.0% (2,410百万円)

▲13.0%
(▲1,125百万円)

2025.3期 税負担率

19.0% (1,285百万円)

- 関係会社清算による貸倒損失
- 法人税の特別控除(賃上税制等)
- 関係会社の持分損益

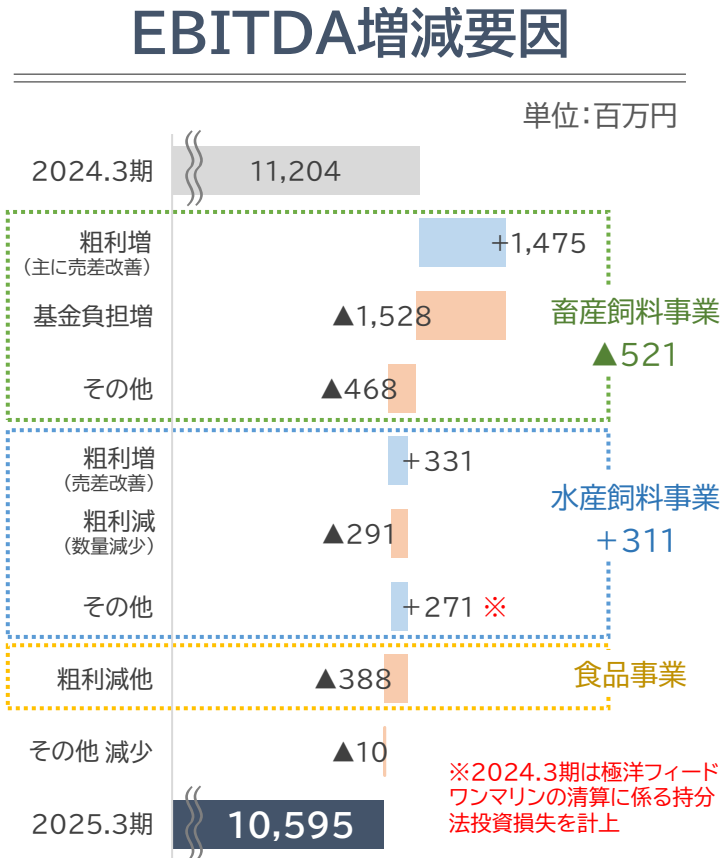
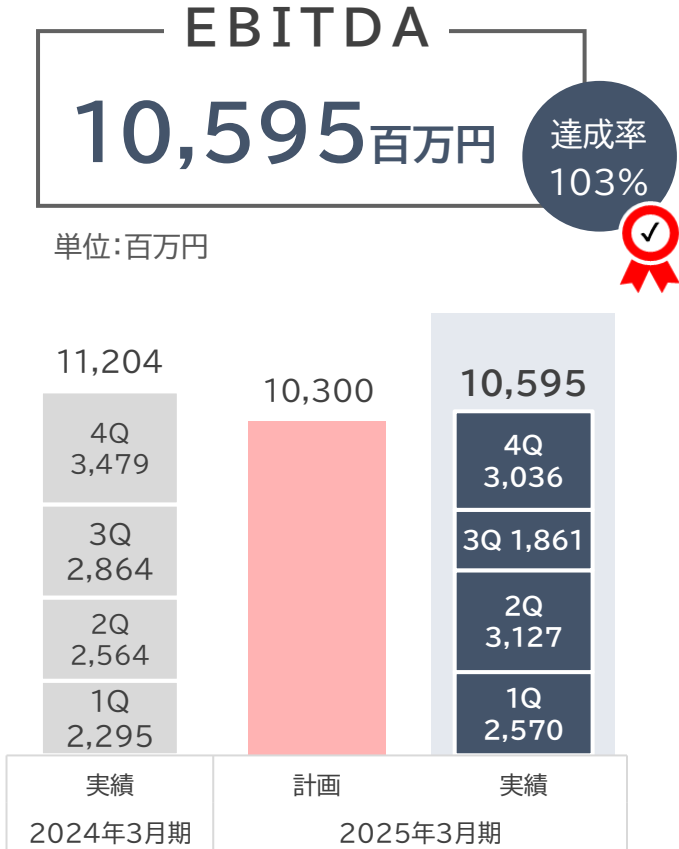
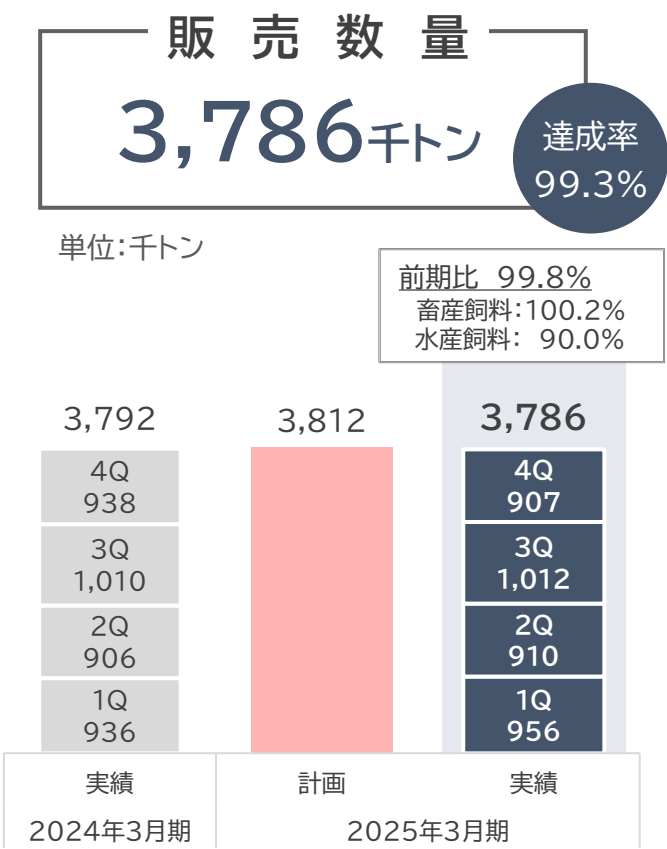


計画25,700百万円の範囲内



不採算事業の撤退や賃上げ等による税負担の減少が最終利益の増加に寄与

販売数量は計画を若干下回るも、採算管理の徹底によりEBITDAは計画達成



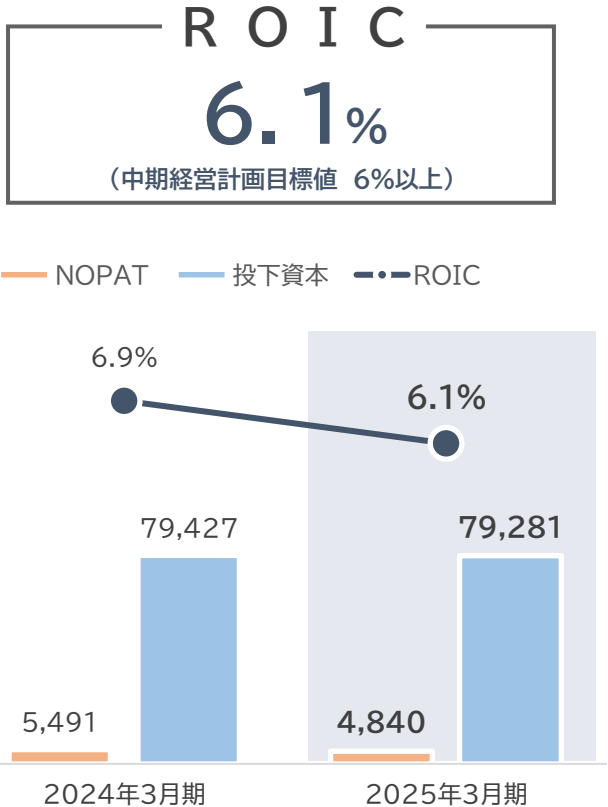
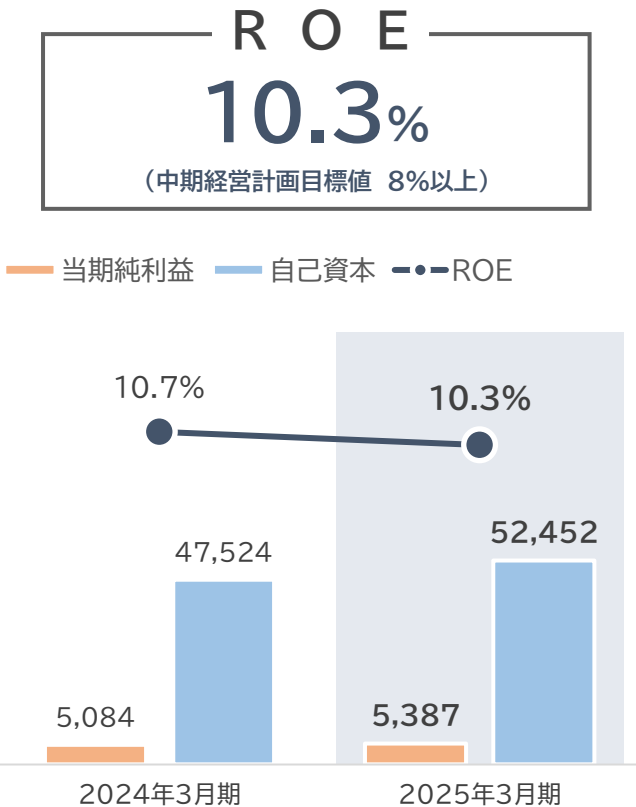
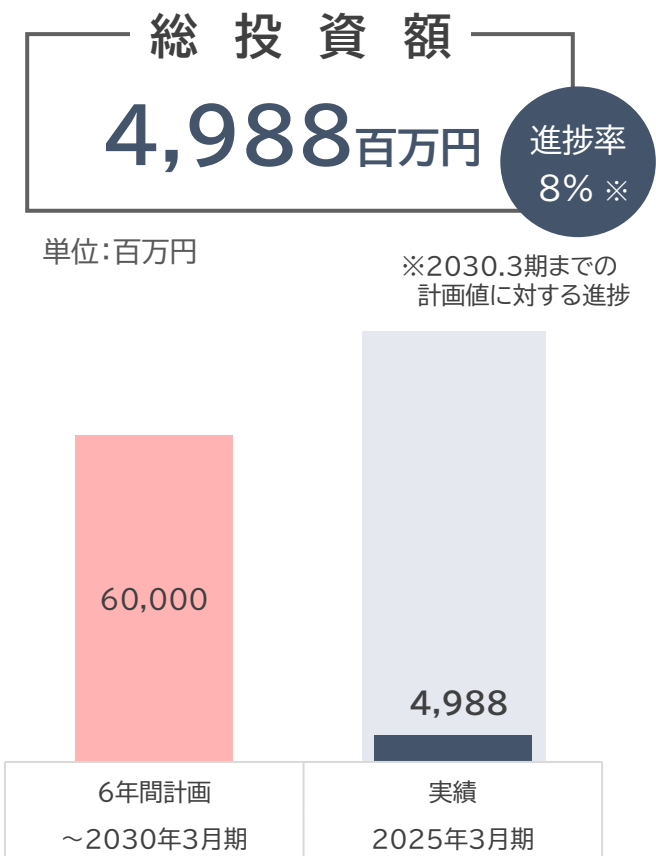
畜産飼料は前期を上回るも、計画は下回り
総販売数量としても計画を下回る



減価償却費に大きな変動はなく、経常利
益同様の理由で計画達成

経営指標の進捗状況

投資は計画通りに進捗。ROEとROICは中期経営計画目標値を上回る



※当社は当中期経営計画期間では 株主資本コスト 8% WACC 6% と想定しております



マジックパール(株)の新工場建設等、計画と大きな乖離なく進捗



税負担の減少により中期経営計画目標値を大きく上回る

※ROE = 当期純利益 / 自己資本の期首・期末平均



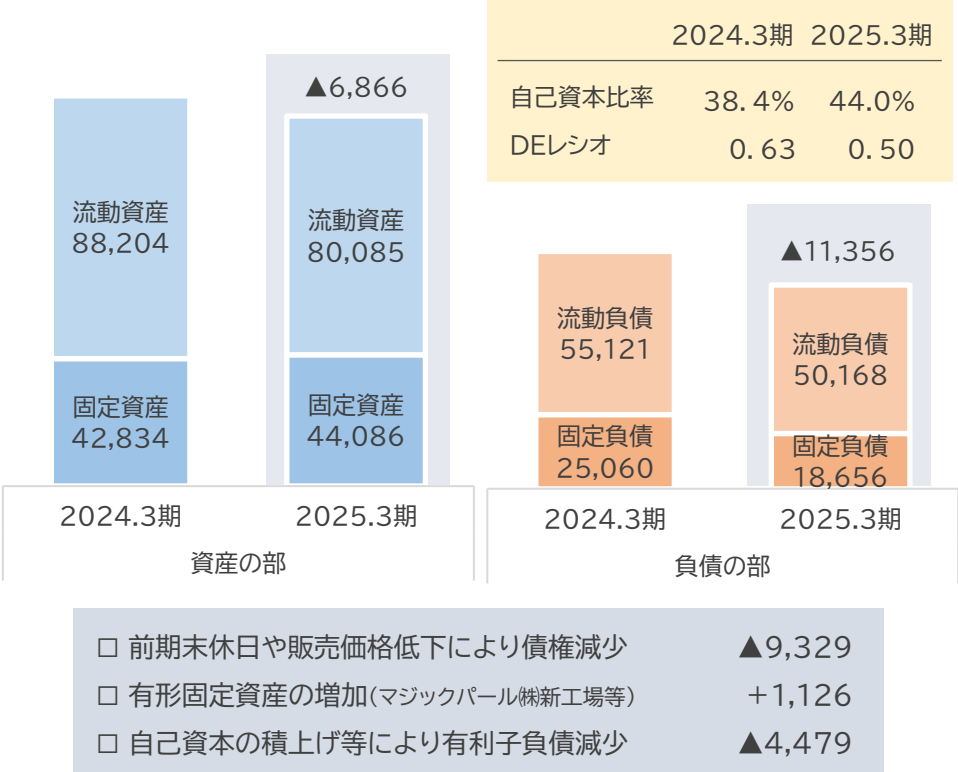
中期経営計画目標値の水準

※ ROIC = NOPAT / 投下資本
※ NOPAT = (経常利益 + 支払利息 - 受取利息) × (1 - 実効税率)
※ 投下資本 = (有利子負債 + 株主資本)の期首・期末平均

自己資本比率は44%、DEレシオは0.5倍となり、財務の安定性は向上

連結貸借対照表

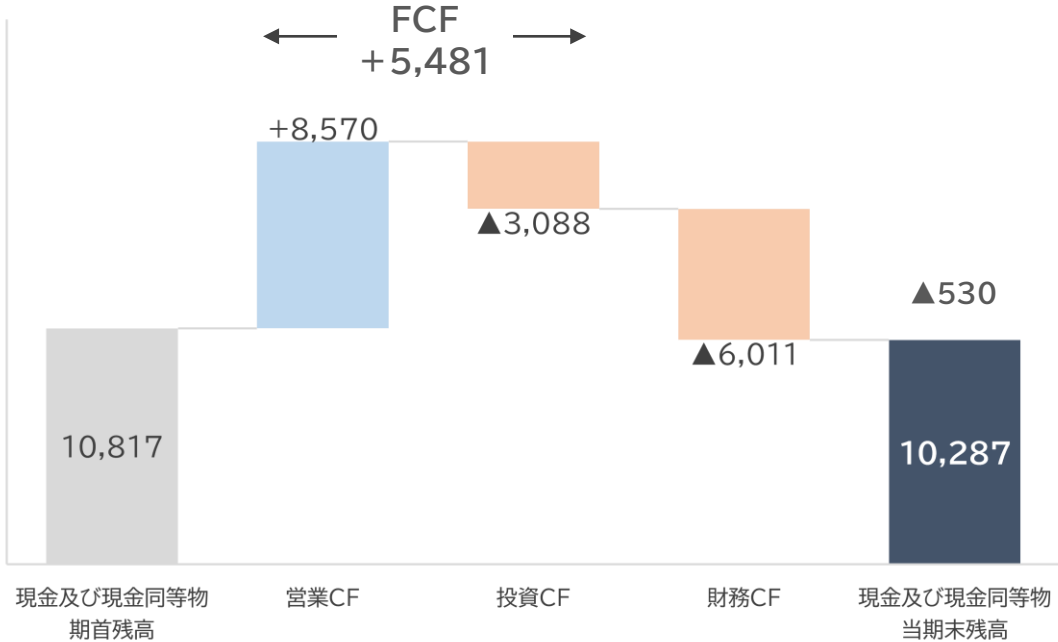
単位:百万円



連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

増加 減少



自己資本(利益剰余金)の積上げと、前期末休日を要因とした運転資金の減少により、自己資本比率は+5.6ppt

※自己資本比率=自己資本/総資産 ※DEレシオ=有利子負債/自己資本



営業CFを投資および有利子負債の返済に充当。投資CFはマジックパール㈱の新工場等の投資

畜産飼料事業は採算管理の徹底も販管費増加により減益。食品事業も畜産物相場の高騰の影響により減益

(百万円)

セグメント		2024.3期	2025.3期	
			増減額	前期比
畜産飼料事業	売上高	247,055	232,259	▲14,796
	セグメント利益	9,107	8,533	▲574
	EBITDA	11,594	11,073	▲521
水産飼料事業	売上高	26,779	25,640	▲1,138
	セグメント利益	864	1,164	+300
	EBITDA	1,367	1,679	+311
食品事業	売上高	40,030	38,131	▲1,898
	セグメント利益	679	284	▲394
	EBITDA	845	457	▲388
その他/調整額	売上高	10	14	+4
	セグメント利益	▲2,913	▲3,193	▲279

※セグメント利益:経常利益ベース
※EBITDA:経常利益+支払利息-受取利息+減価償却費及びのれん償却費
※その他=海外事業及び不動産賃貸事業等、調整額=報告セグメントに配分していない全社費用

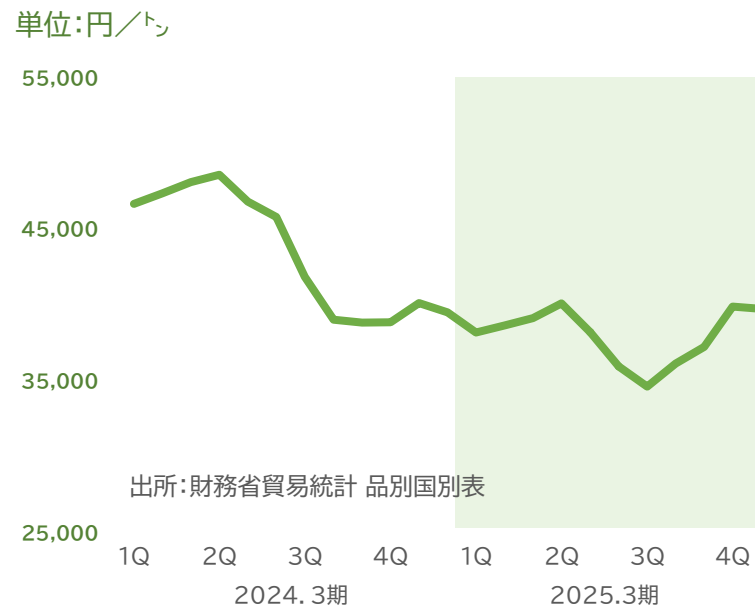
畜産飼料事業に係る市況

円安進行もシカゴ相場は軟調に推移し、畜産飼料販売価格は値下げと値上げを繰り返して通期では前期比低下

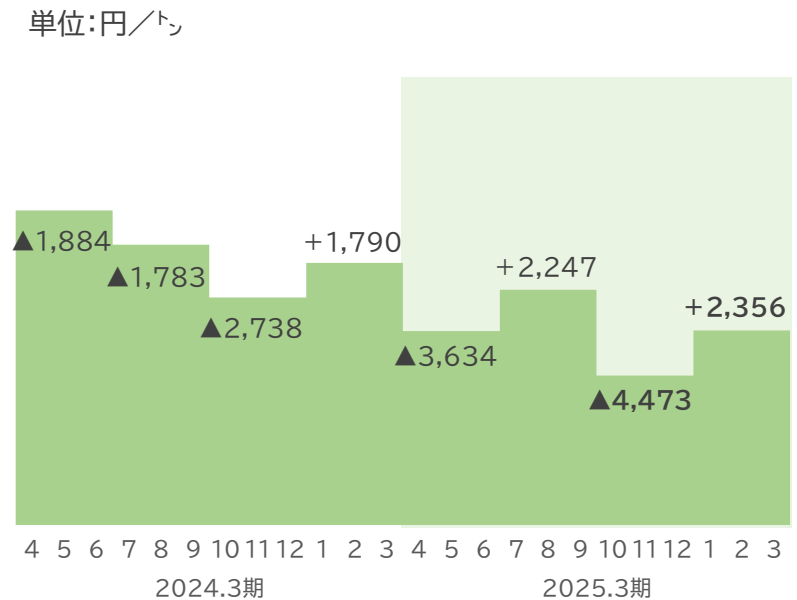
為替とシカゴ相場



とうもろこし輸入価格



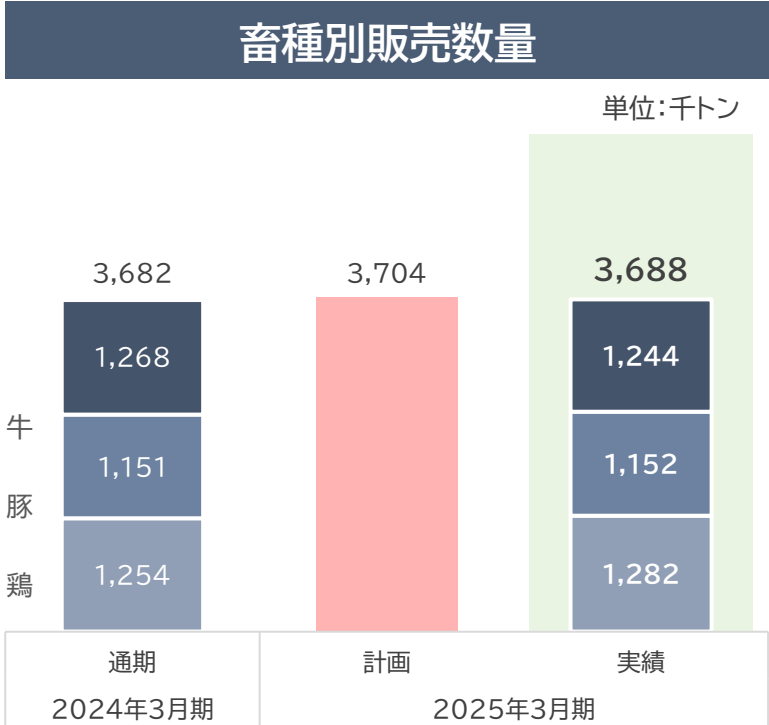
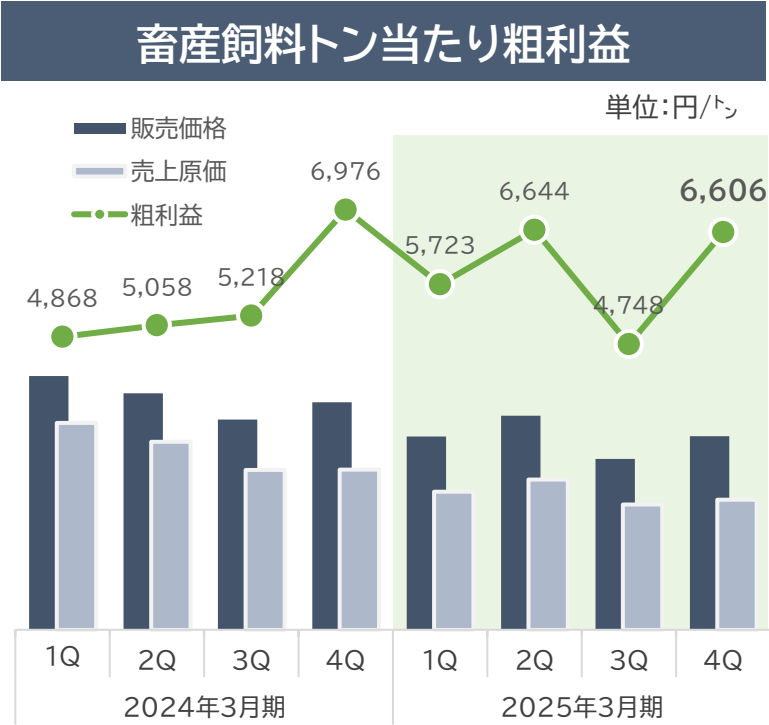
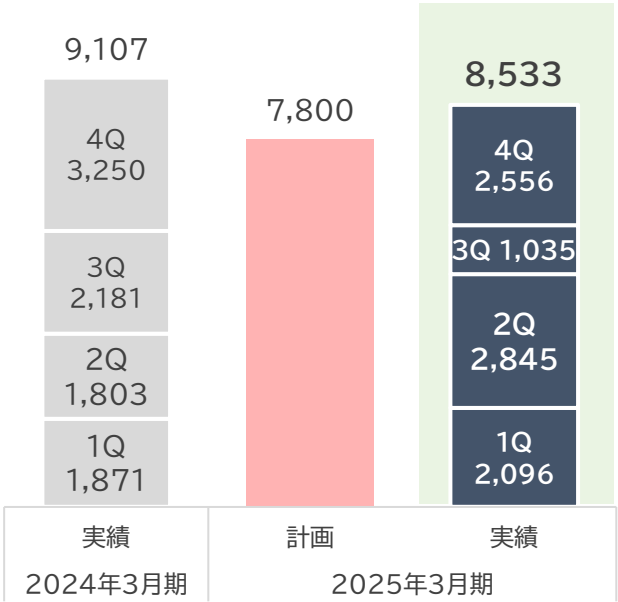
畜産飼料販売価格



- 為替は日米の経済指標や金融政策の影響により円安が進行
- シカゴ相場は生産見通しが市場予測を上回り軟調に推移
- とうもろこしの輸入価格は前期を大きく下回り推移（前期比▲12.2%）

- 畜産飼料販売価格は前期比▲6.4%（▲4,067円/ト）

販売数量は牛用で前期比減少。セグメント利益は粗利益が改善も積立金等で販管費が増加したため前期比減少



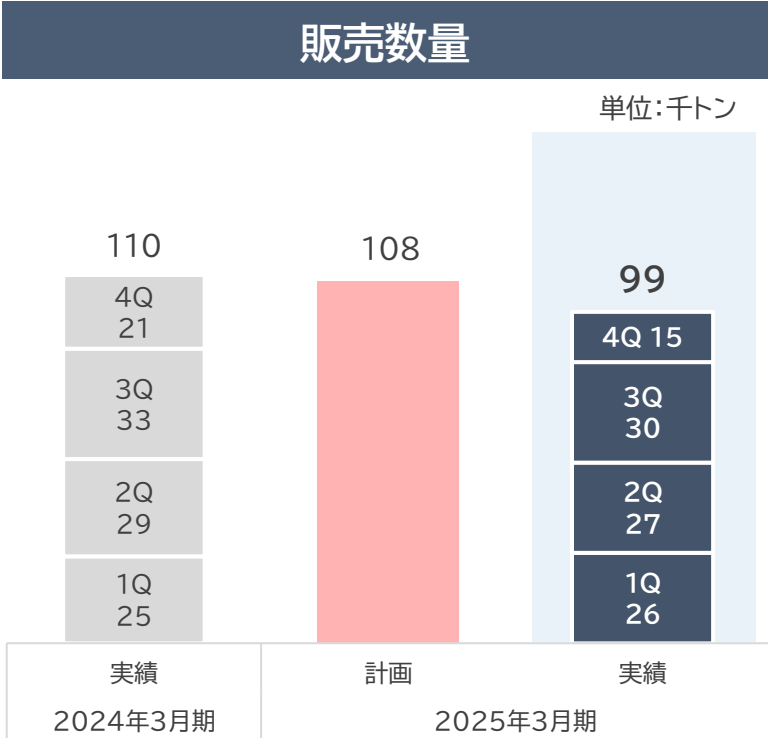
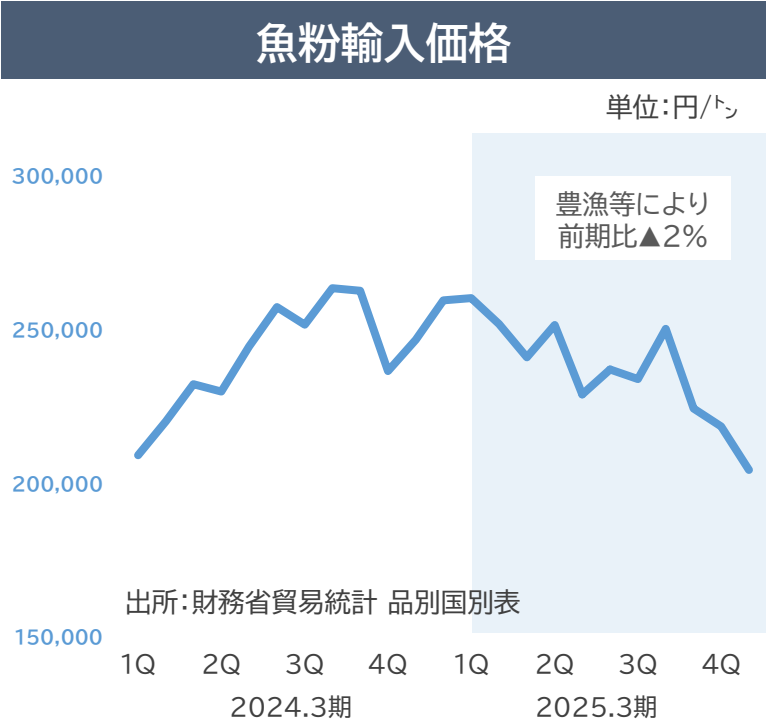
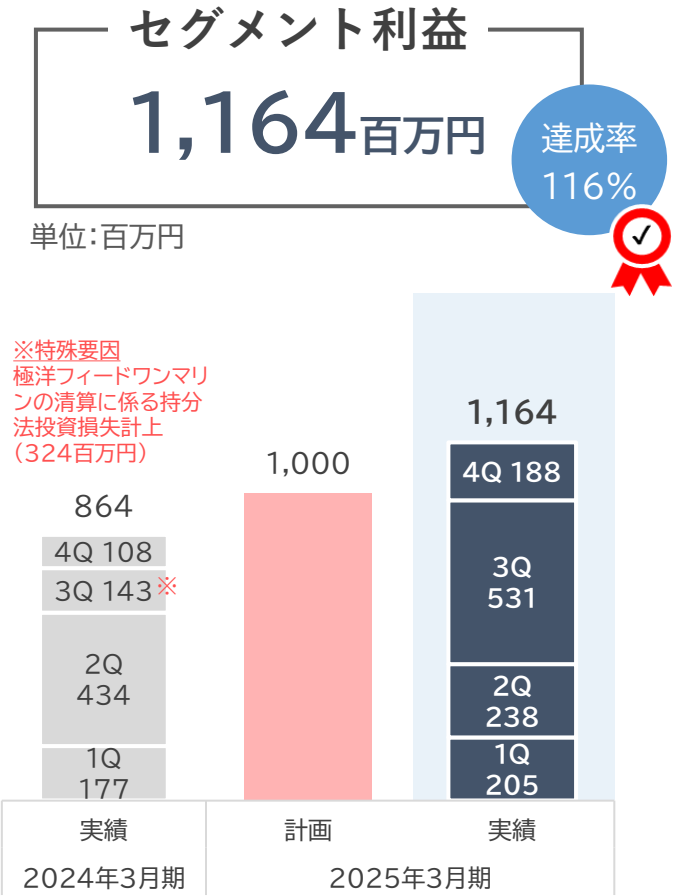
※販売数量の合計値は鶏・豚・牛以外の販売数量も含む

- 粗利益は採算管理の徹底により前期比増加も、販管費増加によりセグメント利益は前期比減少
- 販売数量は計画未達も前期比は増加。鶏用、豚用は増加も牛用は採算管理の徹底により一時的に減少
(参考)全国の畜産飼料販売数量は前期比99.5% (当社調べ)



販売数量は計画未達も、採算管理の徹底によりセグメント利益は計画達成

販売数量は暑熱等の影響を受け前期比減少も、セグメント利益は特殊要因を除くと前期並み

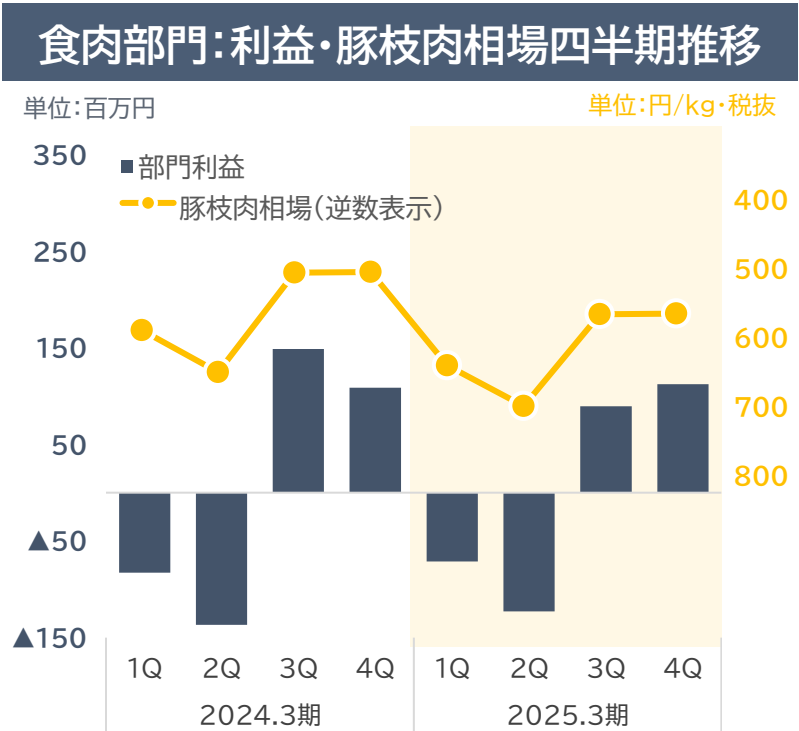
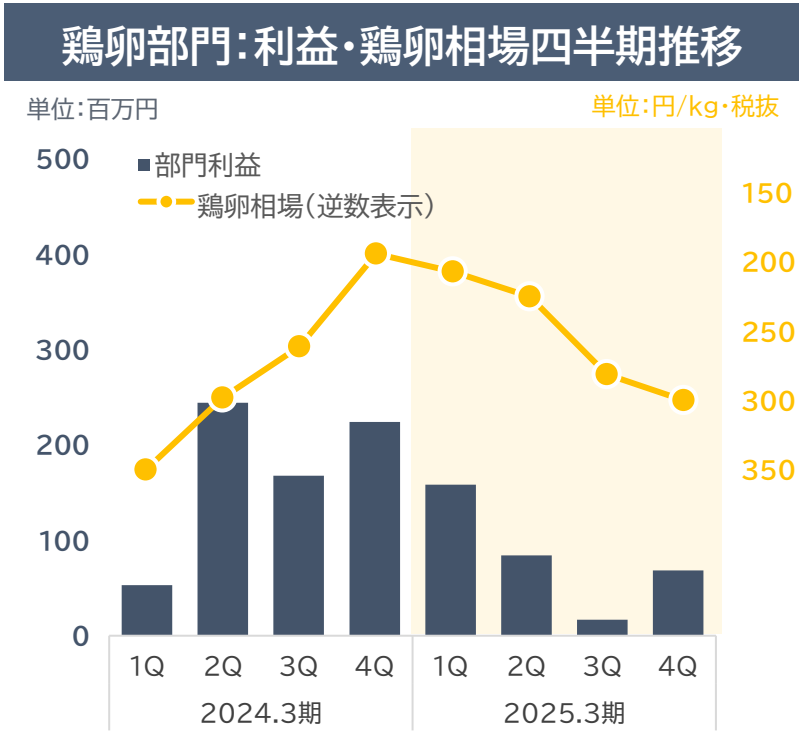
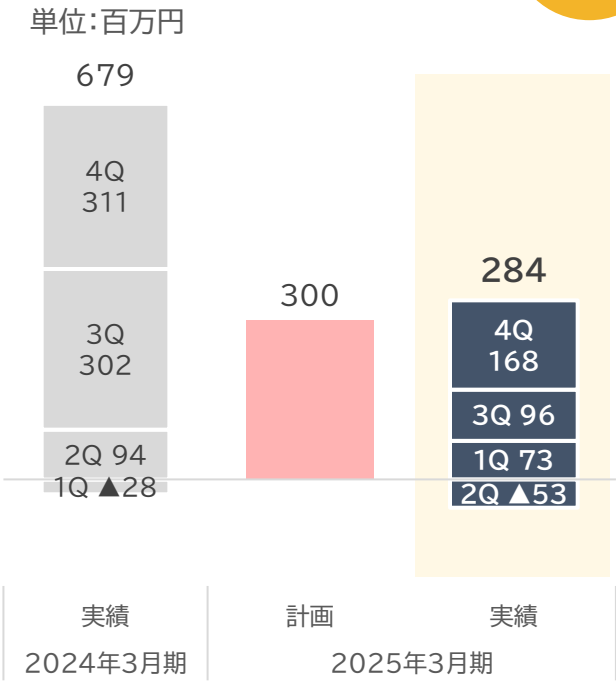


- 4月に実施した価格改定が下半期より浸透。収益性が改善し、セグメント利益は下半期は前年同期比増加
- 販売数量は前期比90%も、マダイ用は前期比102%。特に無魚粉飼料「サステナZERO」(前期比+約4.5千トン)がけん引(参考)全国の水産飼料生産数量は前期比90.4%(当社調べ)



高水温等により数量は計画未達も、価格改定等による粗利改善により計画達成

セグメント利益は、鶏卵部門が前期比を大きく下回るも、食肉部門は相場高騰も採算管理を徹底し前期並み



- 鶏卵部門) 上半期はほぼ計画通りで推移も、下半期は鳥インフルエンザの流行により鶏卵相場が高騰し、仕入価格の上昇により収益性が悪化
- 食肉部門) 暑熱等による想定を上回る相場の高騰も、販売条件の見直し等による採算管理の徹底により仕入価格高騰の影響を抑制



家畜疾病等により畜産物相場が高騰。採算管理の徹底も僅かに計画を下回る

2026年3月期 業績予想

トランプ2.0による影響 (2025年5月8日現在)

食品需要減少懸念等はあるものの、コア事業である畜産飼料事業の特性上、短期的な影響は軽微

TRUMP2.0 による影響

関税

世界景気の悪化

円高進行

etc

畜産飼料事業の特性

- 配合飼料原料のほとんどが輸入原料である
- 主原料であるトウモロコシは免税対象品である
- 原料価格動向に応じ、3か月毎に飼料販売価格を改定する
- 製造した配合飼料の販売先は国内のみ

市場のボラティリティ上昇懸念はあるが
当社への短期的な影響は軽微

日本の畜産業への影響懸念

国産畜産物の生産コストは低下

POSITIVE

輸入原料価格低下

米国の中国向けのトウモロコシの輸出減少、バイオ燃料の補助金削減や円高から、日本が輸入する配合飼料原料となる穀物の相場は下落を予想(=配合飼料価格の低下)

資材コスト低下

先行きの不透明感による企業の設備投資意欲の減退から資材価格の緩和による畜産業の投資活性化に期待

食品需要の減少

景気悪化や旅行者の減少により日本の外食・中食需要の低下

畜産物の輸出減速

米国への畜産物の輸出自体がそれほど多くないため影響は限定的も、日本国内の需要が低下している和牛は相場下落の恐れ

畜産物の輸入増加

米国内の物価高により日本の輸入畜産物価格も上昇。日本国内の国産畜産物需要への影響は限定的

NEGATIVE

国産畜産物の需要は減少

飼料工場への投資を加速しつつ、収益力強化を図り、経常利益、EBITDAは前期比増加を見込む

単位:百万円

	2025.3期	2026.3期		
		(2025年5月8日発表)	増減額	前期比
売上高	296,045	311,000	+14,954	+5.1%
売上原価	264,171	277,200	+13,028	+4.9%
売上総利益	31,874	33,800	+1,925	+6.0%
販管費	25,531	27,000	+1,468	+5.8%
営業利益	6,343	6,800	+456	+7.2%
経常利益	6,789	7,000	+210	+3.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	5,387	5,200	▲187	▲3.5%

経営指標

販売数量	総投資額	EBITDA	ROE	ROIC
381万ト	100億円超	112億円	9%	6%

セグメント別業績予想

セグメント利益は畜産飼料事業、水産飼料事業は前期比増加も、食品事業は前期比減少を見込む

(百万円)

セグメント		2025.3期	2026.3期		
			増減額	前期比	
畜産飼料事業	売上高	232,259	239,000	+6,740	+2.9%
	セグメント利益	8,533	8,800	+266	+3.1%
	EBITDA	11,073	11,500	+426	+3.9%
水産飼料事業	売上高	25,640	28,000	+2,359	+9.2%
	セグメント利益	1,164	1,200	+35	+3.1%
	EBITDA	1,679	1,800	+120	+7.2%
食品事業	売上高	38,131	44,000	+5,868	+15.4%
	セグメント利益	284	200	▲84	▲29.7%
	EBITDA	457	400	▲57	▲12.5%

1Q見通し

1Qは大きな業績変動は見込んでいない

- ・ 1Qの価格改定は若干の値上げで売差への影響は軽微
- ・ 基金単価は微増見込
- ・ 主要魚種であるハマチの在池薄が続く（2Q以降に回復見込）
- ・ 魚粉相場は軟調に推移する見込
- ・ 鳥インフルエンザの影響により鶏卵相場は高値推移を見込

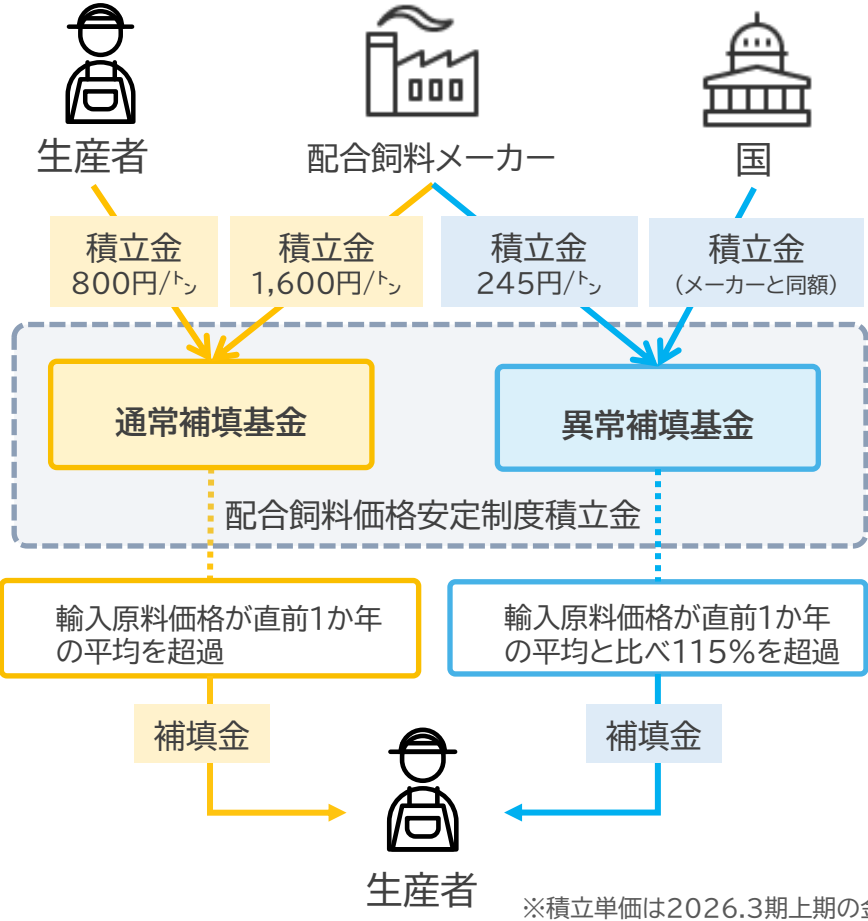
販売数量	2025.3期	2026.3期	前期比	コメント
	(千ト)	(千ト)		
畜産飼料	3,688	3,700	+0.3%	投資・メンテナンスのため戦略的に製造抑制
水産飼料	99	112	+13.1%	稚魚導入による需要増加

appendix

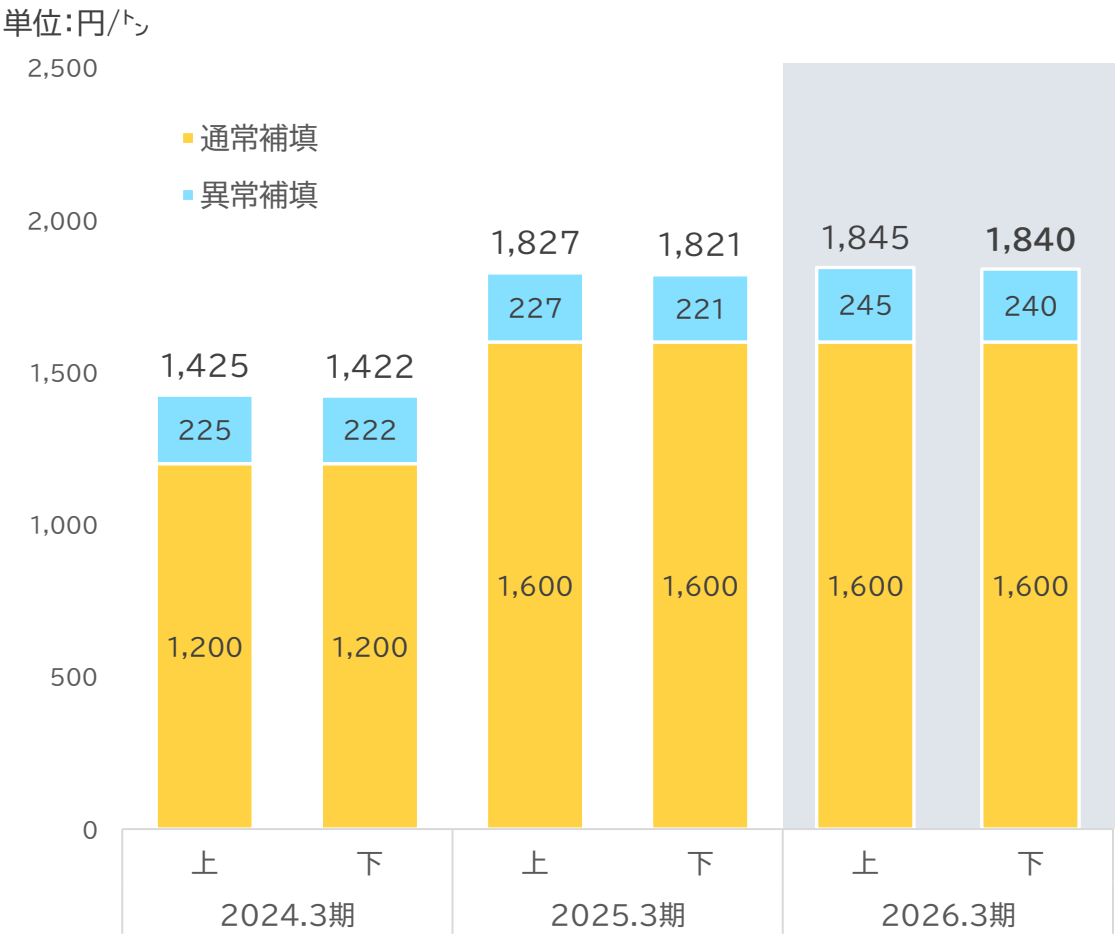
配合飼料価格安定制度積立金

輸入原料の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度

制度の仕組み



積立金(配合飼料メーカー)



2025年3月31日時点の連結対象会社は以下の通り

子会社 21社

● 飼料販売会社

北海道フィードワン販売(株)
道北協同飼料販売(株)
八戸フィードワン販売(株)
岩手フィードワン販売(株)
鹿島フィードワン販売(株)
東海フィードワン販売(株)
北九州フィードワン販売(株)
南九州フィードワン販売(株)

● 飼料製造会社

苫小牧飼料(株) (25年4月1日より自社工場)
東北飼料(株) (25年4月1日より自社工場)
志布志飼料(株)

● 農場会社

(有)グリーンファームソーゴ
(株)第一原種農場
(株)南部ファーム

● 食品会社

マジックパール(株)
フィード・ワンフーズ(株)
(株)横浜ミート
ゴールドエッグ(株)

● その他

空知管理サービス(株)
(有)いわき中央牧場
南洋漁業(株)

持分法適用会社 11社

● 飼料販売会社

(株)北海道サンフーズ

● 飼料製造会社

釧路飼料(株)
仙台飼料(株)
鹿島飼料(株)
平成飼料(株)
八代飼料(株)
マルイ飼料(株)

● 農場会社

(株)美保野パーク

● 海外

KYODO SOJITZ FEED COMPANY LIMITED
NIPPAI SHALIMAR FEEDS PRIVATE LIMITED

● その他

門司港サイロ(株)

畜産飼料事業セグメント

水産飼料事業セグメント

食品事業セグメント

その他セグメント

2026年3月期												2027年3月期		
第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			第1四半期		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
● 2025年3月期 決算発表			● 2026年3月期 第1四半期決算発表			● 2026年3月期 第2四半期決算発表			● 2026年3月期 第3四半期決算発表			● 2026年3月期 決算発表		
● 2025年3月期 決算説明会			● 企業調査レポート			● 事業説明会			● 企業調査レポート					
● 有価証券報告書						● 統合報告書						有価証券報告書 ●		
● 第11期定時株主総会												第12期定時株主総会 ●		
			● 中間配当基準日						● 期末配当基準日					
5/8	2025年3月期 通期決算発表		7/31	2026年3月期 第1四半期決算発表		10/31	2026年3月期 第2四半期決算発表		1/30	2026年3月期 第3四半期決算発表				
5/20	2025年3月期 通期決算説明会		7月中	企業調査レポート		11/18	事業説明会		1月中	企業調査レポート				
6/17	有価証券報告書													

IR面談のお申込みは ir@feed-one.co.jp まで(スピーカー/取締役常務執行役員 窪田)

※IR naviやみんせつでの設定も対応しております